

2.4.3 試験結果

(1) 連続段差走行試験

連続段差走行試験は、2種類の段差走路（①、②）および段差走路②の進入部に斜路（勾配 1:10）を設けた場合の3種類の走路条件に対して走行速度を変化させて行った。試験ケース（=走路ケース名）を表 2.4.4 に示す。

表-2.4.4 連続段差走行試験ケース

| 走路 | | | 走行速度 |
|--------|------|-------|-----------|
| 走路ケース名 | 段差走路 | 進入端斜路 | |
| ケース1 | ① | なし | 40,80km/h |
| ケース2 | ② | なし | |
| ケース3 | | あり | |

図-2.4.5～図-2.4.7 に車両ケース毎に軸重波形を示す。各図には軸重変動波形（グラフの縦左軸に対応）、速度計の値（グラフの縦右軸に対応）に加えて段差設置区間（グラフ横軸に対応して位置を指示）を示している。

図-2.4.8～図-2.4.10 に車両ケース毎に軸重変動波形を周波数分析した結果を示す。

図-2.4.11～図-2.4.13 に車両ケース毎に軸重頻度の分布を示す。また表-2.4.5 に 0.02tf ピッチで整理した軸重最大値と実験時の静的軸重値との倍率（動的倍率）を示す。